

KYOTOの行方

訪日客1千万人時代へ

㊦ 「富裕層」眠る鉦脈

西陣の工房を見学するUAEのメディア関係者たち。京都の伝統工芸の技に感嘆の声を上げた(京都市上京区) 撮影・梶田茂樹



ルさん(32)は感嘆のため息をついた。

訪日客の誘致を図る京都文化交流コンベンションビューロー(中京区)が招いた。現地の旅行代理店も呼び、祇園で舞妓とお茶屋遊びを体験してもらった。アラブ諸国で京都の認知度は極めて低いといい、参加者には新鮮に映ったようだ。

「現地の富裕層は旅行欲が旺盛で常に新しい場所を求めている。驚きに満ちた京都は、必ず興味を引く」。記事化や旅行商品の企画を約束する彼らの言葉に、招待を企画した職員は手応えを感じた。

アラブ市場を切り開け

アラブ首長国連邦(UAE)の雑誌記者ら6人が9月下旬、京都市上京区の西陣にある町家で目を見張った。西陣の織物の生地で仕立てた背広、

くぎを使わない木製のシンヤンパンクーラー…。「素晴らしい」。伝統技術の粋を現代製品と融合させた商品を前に、ジョージナ・ウイルソン・パウエ

世界の熱い視線を浴びる豊かなアラブ市場を切り開く可能性の発端は、この4カ月前にさかのぼる。

(藤松奈美)

24面に続く